



2月の園だより

令和8年2月2日
目黒区立中町保育園 園長

お店屋さんごっここの日、子どもたちの心は弾んでいました。なかよし会の異年齢グループで準備を進めてきた3・4・5歳児クラスですが、最初のうちはぼんやりしていた活動の目的が回を追うごとにくっきりてきて、前日シミュレーションの頃には“明日を楽しもう”と程良いまとまりが生まれていたように見えました。お客様として参加する0・1・2歳児クラスにとって、チケットはその日一番の貴重品であり、肌身離さずの必須アイテムです。保育士が乗り物エリアで飛行機に乗ると、同乗していた子が「〇〇県に着いた。降りま～す」「〇〇県にはおばあちゃんが住んでいるんだ」と嬉しそうに途中下車します。パイロット役の子も「ちょっと待って、まだ降りないで」と飛行機をバックで車庫入れしています。現実の世界では起こり得ない飛行機の途中下車やバックでの車庫入れも遊びの世界では成立し、自分の経験に基づいて再現を楽しむ子もいれば、未経験のことへの憧れとともに楽しむ子もいるのです。お店屋さんごっここの盛り上がりを目の当たりにして、遊びの環境は本物である必要はなく“本物かのように”楽しめる感性を育む大切さを改めて感じました。ごっこ遊びや再現遊びは豊かな日常を形作る上で不可欠であり、行事としてお店屋さんごっこがどの園にも存在する意義がそこにあるように思います。途中下車した子にとって“大好きなおばあちゃんとつながる日”になったことが、保育士にとってささやかな喜びでした。

行事予定

節分（全園児）

乳児お楽しみ会（0・1・2歳児）

中旬 身体計測 避難訓練

【クラス懇談会】

0・1歳児クラス

16:30~17:45

心・体 ほぐれてぽつかぽか

(乳児フリー)

子どもを大根に見立て、お漬物にするまでの『だいこんいっぽん』というふれあい遊びを楽しんでいます。「大根一本抜いてきて ぱっぱっぱっぱっ泥落とし ごしごしごしごし水洗い まな板の上にゴロンゴロン」と保育士が歌に合わせ、横たわった子どもの体を、泥を払うように撫でる、塩もみするように体を揺らす、足を曲げたり伸ばしたりしながら樽に詰めるといった表現をします。歌い始めはくすぐったい感覚に肩をすくめますが、緊張がほどけてくるとゲラゲラと大笑いです。「〇〇ちゃんの大根漬け、出来上がり」と指をつま楊枝やお箸に見立てて食べる真似をするとひと際くすぐったくなり、楽しい場面です。「あはは、くすぐったいよ」「楽しい、もっとやって」と大根になりたい子どもたちが横並びに寝転びます。保育士と目と目を合わせて触れ合うことが、体や心への心地良い刺激となります。特別な道具は要りません。“いつでも誰でも簡単に”遊ぶことが出来るふれあい遊びは子どもも大人も幸せになれる時間です。



赤グループ

「ゲーム屋さんがしたい」「すごろくゲームがおもしろいよ」という案が出ました。ちょうどすごろくゲームで遊び始めた頃だったので、遊びの楽しさがわかっています。他にも『ガチャガチャ』や『クレーンゲーム』という意見が出たので、すごろくに取り入れることにしました。「小さい子達が来た時に、わかりやすくしよう」と考え、子どもたちのアイディアによってサイコロの目は数字ではなく、色別にしました。サイコロ作りでは、友達に「こっちを持っていて」と声を掛けたり、やりにくい作業では箱が動かないように固定してあげる等、ごく自然な異年齢の関わりも見られました。協力しながらそれぞれが準備を進め、お店屋さんごっこへと気持ちが盛り上がっていました。



中町ランドへようこそ

3・4・5歳児クラス 異年齢活動

青グループ

乗り物やさんをすることになり、どの様に進めていくか話し合いました。「お客様を乗せて、自分たちで運転したい」という思いがあり、バスや新幹線、飛機等大型の乗り物を作ることにしました。新幹線は「虹色にしようよ」と好きな色選び、生き生きと描くことでオリジナル模様の車体になりました。『運転席』という絵本をヒントに年長児が「これを描いたらいいんじゃない」と率先して意見を言い、運転席を作りました。ナビゲーションやミラーを細やかに描写したり「空が見えるよね」「飛行機の窓にはフタがある」と一人ひとりが知っていることや出来ること、手伝ってほしいことを言葉にして力を合わせ、交通博物館に負けないくらいの乗り物が完成しました。



黄色グループ

ラーメンとデザートが食べられるフードコートに決まりました。ラーメン、デザート、それぞれの担当に分かれて作るものを作りました。実際にお店で食べた経験を思い出しながら「ラーメンにのせたタマゴがおいしかった」「それじゃ、たくさんトッピングを作ろうよ」「ケーキとアイスを作りたい」と発想が膨らみました。食べ物作りが始まると「ケーキを作るね」「メンマを作るから、○○くんはチャーシューを作って」とおひさま組とつき組が役割分担をしながら進めています。その姿を見て、ほし組が「どうやって作るの」と質問すると優しく教える姿があり、至るところで異年齢の関わりが見られました。看板作りは「小さい子にも来てもらえるように、可愛く作ろう」と相談し、子どもたちの思いが詰まった看板が完成しました。「行列になるくらいのお客さんが来てくれるかな」とお店が賑わうことを想像しながら準備を進めていました。

